



今年の干支は、十二支の中で第6番目の巳です。巳はへびのことで、その外見からへびが苦手な方もいますが、神格化されて神話などにも登場し、市立甲府商業高校の校章や救急車に描かれているへびは、知恵を表しています。

さまざまなイメージを抱かせるへびですが、市立動物園では今年の主役として皆さんの来園を待っています!!

明けましておめでとございます。

昨年を振り返りますと、本市出身の成島出監督が日本アカデミー賞・最優秀監督賞などを受賞し、続いて山梨学院大学の鈴木聡美選手がロンドン五輪で3つのメダルを獲得、東海大甲府高校野球部が全国高校野球選手権大会においてベスト4に、そしてヴァンフォーレ甲府がJ2優勝J1昇格と、甲府市民を熱くさせる出来事の連続でした。また、11月には、多くのボランティアの皆様や関係機関のご協力により「2012関東・東海B-1グランプリin甲府」を開催し、約14万8千人の人々で賑わ

うなど、甲府の名前が全国に発信された1年でありました。

今年も、新庁舎が完成し、5月連休明けから執務を開始いたします。この新たな拠点を土台とし、これまで蒔いてきた種を発芽させ、しっかりと根を張ることができるよう諸施策を展開し、次の世代に自信と誇りを持って引き継ぐことのできるまちづくりを進めるため、市民の皆様と共に力を合わせ歩んでいきたいと考えております。

今年も、よろしくお願い申し上げます。

甲府市長 宮島雅展

今年の主役 チエルシー、しまちゃん

「展示しているのは、レッドコーンスネークのチエルシー（メス）とカリフォルニアキングスネークのしまちゃん（オス）です。どちらもアメリカ合衆国に生息するへびで、毒はありません」と教えてくれたのは、市立動物園で獣医師をしている秋山多江さん。今回、秋山さんにいろいろとお話を伺いました。

2匹は、ペットとして飼うのに人気のへびで、品種改良によって色を出しているそうです。チエルシーよりもっとカラフルなコーンスネークもいるそうです。一方のしまちゃんは、どちらかというとスタンダードな色だそうです。

コーンスネークの名前の由来は諸説あり、トウモロコシに見間違えられた（トウモロコシ色をしていた）という説やトウモロコシ畑にいる小動物を食べにきたという説などがあるそうです。またへびを食べることもあるへびをキングスネークと呼び、しまちゃんは食いしん坊のへびだそうです。

へびの展示コーナーは 入園のすぐ隣

2匹を展示している場所は、動物園の管理事務所横、入園してすぐの所です。日中はそこで過ごしますが、夜になると園内にあるどうぶつ病院に移動させるそうです。

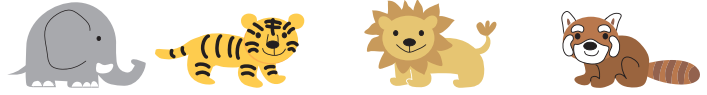
ただし今の時季、その日に見ることができるのはチエルシーかしま

◀甲府市遊亀公園
附属動物園の入口。園
イベントなどで来園
者が多い時には中央
の扉を開けます。



今年巳年

動物園へ見に行こう!!



▲チェルシー
和名 レッドコーンスネーク
生息地 アメリカ合衆国東南部
体長 140cm
ピンク色の体が見る人の興味を引きます。家庭でも飼育でき、人気のヘビです。



▲しまちゃん
和名 カリフォルニアキングスネーク
生息地 アメリカ合衆国西部海岸部～カリフォルニア半島
体長 140cm
白と黒のしま模様が特徴です。何でも食べる食いしん坊です。

ちゃんのどちらか1匹だけです。夏場は2匹を別々のケースで展示していますが、寒くなつてからは、1匹ずつ展示しているそうです。その理由は、ヘビは爬虫類のため、寒いと機能が低下してしまつてからです。動物園ではヘビが1年中生活できるような暖かい場所に飼育していますが、保温できる場所に限りがあるため、冬場は1匹ずつ日替わりで展示しているそうです。

「飼育では特に温度管理に気を付けています。冬場にどろどろ病院から展示室に連れてくる時も、展示室をヒーターで暖めてから連れてきます」と秋山さん。

ヘビの多くは温暖な地域にいて、日本でも本州のヘビは冬眠します

が、1年中暖かい地域のヘビは冬眠せずに生活しているそうです。チェルシーとしまちゃんは冬眠せずに、1年中来園する皆さんを楽しませてくれる働き者です。

気になる生態

冬眠しない2匹ですが、年に数回ずつ脱皮するそうです。餌を食べていけば脱皮するそうで、チェルシーは12月に脱皮したばかりです。脱皮前は体が白くぼやけていましたが、皮を脱いだ今は、鮮やかな模様を見ることが出来ます。

一方しまちゃんは冬場は餌を食べないので脱皮しませんが、夏場に餌を食べて新陳代謝が活発になると脱

皮するそうです。

「脱皮は、服のサイズが自分の体と合わなくなったので服を脱ぐという感じ。食事をしなければ、そのままのサイズで乗り切ってしまう。2匹は体長は変わっていませんが、太さはちょっとずつ太くなっています」と秋山さん。

食べ物ハツカネズミで、歯はありますが丸飲みして食べ、夏場だと毎日食べる時もありますが、冬場は1週間に1回くらいだそうです。現在は食事をしているチェルシーも、脱皮の1週間くらい前からは食べなかったそうです。また冬に餌を食べないしまちゃんも夏場の食事ではかなり太るそうです。

ヘビの動き方の特徴としては、くねらせて進む、はたいていくものもありますが、「スルスルス」と直進することもできます。チェルシーとしまちゃんは直進できるそうです。また木にも登ることができ、展示室に丸太を入れておくと、絡みついて登るそうです。



写真撮影スポット へびさんの顔出し看板

動物園では已年にちなんで、へびさんの顔出し看板を設置しました。看板の前にはへびのぬいぐるみなどもあるので、それを使って写真を撮ることもできます。またタイミングが合えば実際にへびを持って撮ることもできるそうなので、その時は、勇気をもって撮ってみましょう！

「へびは人に慣れていれば触ることもできます。また今回、へびの体の秘密をもっとよく知ってもらおうと説明パネルを増やしました。詳しく知ると親しみも湧いてくるので、チエルシーとしまちゃんのことを知って興味を持ってほしいなと思います」と秋山さん。

1月2日からは、来園した方に先着順でへびの抜け殻をパウチしたものをプレゼントします。お財布にも入りますので、金運アップに使ってみてはいかがでしょう。



▲へびさんの顔出し看板

Interview

市立動物園の魅力

飼育員さんはシャイなので自分からはあまり話しかけてきませんが、聞くだけでも教えてくれます。動物について聞きたいことがあつたら遠慮なく質問してみるのがいいと思います。動物たちとふれあうこと

どの動物もみんな魅力的なので万遍なく見学していただきたいですね。

それぞれの動物の展示場所には説明パネルがあり、野生の様子を知ることができます。動物の生態の不思議が書かれているものやクイズ形式のものもあるので、楽しく知ることができると思います。



獣医師 秋山多江 さん

ができるのも魅力ですね。大人気のモルモットとのふれあいは毎日できます。1日飼育係を体験できるサマースクールやゾウやヤギにえさをあげる体験、ポニーに乗る体験などさまざまなイベントも開催しています。開催時にはぜひ動物たちとふれあってもらいたいと思います。

またタイミングが合えば、ペンギンに魚をあげたりへびに触ったりもできるので、動物をより身近に感じてもらえると思います。

アジアゾウのテルちゃんは、話しかけるとこちらに向かって、鼻をふってコミュニケーションをとってくれることもありますよ(テルちゃんのお気分次第ですが...)。

動物との距離が近く、身近で動物を見ることができると、アップで見やすいことが市立動物園の魅力だと思います。まちなかにあるので散歩の途中などに気軽に立ち寄っていただきたいと思いますね。

市立動物園には、アジアゾウ・チンパンジー・レッサーパンダ・ライオン・トラなど、55種・約270点の動物たちが暮らしています。

開園は大正8年、全国で4番目にできたとても歴史のある動物園です。敷地総面積は1万3,400㎡で動物園としてはあまり広くありませんが、動物との距離が近く、身近に動物を感じることができます。

★動物園に関する情報は、市ホームページの動物園ページ(<http://www.city.kofu.yamanashi.jp/zoo/index.html>)でも発信し

市立

動物園

ています。動物園で働くスタッフのブログもあり随時更新していますので、ぜひご覧ください。

●開園時間(11～3月)…午前9時30分～午後4時30分(入園は4時まで)

●年末・1月の休園日…12月29日(土)～1月1日(火祝)、7日(月)、15日(火)、21・28日(月)

●入園料…大人310円、小・中学生30円

★毎週土曜日は市内に住んでいる小・中・高校生は入園が無料です。

☎市立動物園…☎(233)3875